

献呈の辞

加藤隆教授は 2001 年春に古稀を迎えられた。これを記念して、学内外の諸先生方からの玉稿をもって古稀記念論文集が作成されることになった。いずれの諸先生も加藤先生の学殖を吸収し、熱心な指導に接した方ばかりであり、こうした方々によって記念論文集を纏められたことは幸いである。御投稿いただいた諸先生方には深く感謝の意を表したい。

加藤先生は 1931 年に岐阜県に生まれた。1953 年に本学政治経済学部を卒業した後、本学大学院に進まれ、本位田祥男教授の指導のもとに日本経済史の研究を始められた。1956 年、政治経済学部助手に採用され、以来 45 年にわたって政治経済学部で奉職された。先生は日本経済史、日本経済思想史の講義を担当され、史料や図表を駆使した講義は、歴史の見方を改めて考え直させてくれる新鮮なものであった。

加藤先生が長年研究されてきたことは、日本の工業化の問題であり、この問題に対して地方金融機関から接近し、多くの地方銀行の実証的研究を残してこられた。先生は史料収集のために出身地の岐阜県を手始めとして、静岡県、群馬県、埼玉県、長野県、沖縄県など多くの地方を歩き回られた。わたくしは先生の史料調査に同行する機会を多く得た一人であるが、これらの調査を通して史料の見方や整理方法を教授していただいた。また、日米生糸貿易関係史料調査では、カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校

まで足を伸ばした。海外の史料に初めて接したこの時の感動は今でも強く残っている。

先生は明治大学百年史編纂に当初から携わり、今まで明らかにされてこなかった明治大学百年の歴史を詳細に描き出された。明治大学草創期の外国人教師アピール、大学令施行期の大学昇格運動、アジア留学生、学徒出陣、勤労働員などは、先生が中心となって調査を進めたものである。先生は、1904年の政学部開設から1925年の政治経済学部独立までの歩みを政治経済学部創立80周年に際して纏められ、さらに今回の古稀記念論文集では、この続編「政治経済学部創設の軌跡」を執筆していただいた。政治経済学部はもうすぐ創設100周年を迎えるが、このほとんどの歴史は先生によって執筆されたものである。膨大な史料をもとに明らかにされた政治経済学部の歴史は、本学部にとって貴重な財産である。先生は、明治大学百年史編纂終了後、大学史料委員会委員長として大学史料の保存・復刻を継続したほか、大学史紀要『紫紺の歷程』の刊行を開始した。こうした先生の明治大学史編纂にかける熱意には頭が下がるばかりである。

大学院教育に関して、先生は政治経済学研究科委員長として大学院生のレベル向上、研究発表の機会付与の観点から「政経学会」を創設した。この学会はすでに第9回大会に及んでおり、ここで研究発表をして研究者の道を歩みだした大学院生も多い。一方、大学院の留学生教育においても、先生は熱心な指導で知られている。先生は、「孫文が日本留学時代に学んだ藤野先生のような教員でありたい」、とおっしゃっていたことがある。この言葉通り、

留学生に対して常に暖かい態度で接し、懇切丁寧な指導を行っていた姿勢には学ぶべきものが多かった。今日でも先生を慕う留学生が多いのは、このような先生の教育姿勢によるものである。

今回、加藤先生が政治経済学部を退職されるのは誠にさびしい限りである。明治大学の歴史を研究されてきた加藤先生によれば、大正期の大学令によって法学部と商学部に分属された政治経済科が政治経済学部として独立に成功したのは、学生・OB・教員の「同心協力」という明治大学建学の理念によるものが大きいという。我々は、この言葉を胸に刻みつけて、21世紀の明治大学政治経済学部の教育研究活動に取り組んでいく所存である。

ここに謹んで古稀記念論文集を献呈するにあたり、加藤先生が今後とも健康を保たれ、末永く政治経済学部の発展を見守っていただくことを願って止まない次第である。

2001年3月

明治大学政治経済学部助教授

秋 谷 紀 男